

ドイツ連邦食料・農業省 最新農林漁業情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 22
2019・1・17

1 連邦食料・農業省：ドイツにおける食習慣・2019年食料レポートを公表
(2019・1・9)

ドイツ人は、変化に富んだ多彩な食料に気を配っている。ドイツ人は、食料を常に意識して購入し食べている。このことは、今年の食料レポートの重要な知見である。抽出した 1000 人の消費者に質問した結果は、連邦食料・農業大臣ユリカ クレックナーと Forsa（訳注・ドイツの世論調査会社）一経営者マンフリットギュルナーが、2019年1月9日にベルリンで紹介した。

美味しく、健康に

「食事は美味しく」が、回答者 99%の答えであった。その際、91%が健全な食事が重要としている。ドイツ人は、変化に富んだ多彩な食事に配慮している。

- ◎ 回答者の 71%が毎日果物と野菜を食べている。
- ◎ 同じく 64%が毎日ヨーグルトとチーズのような乳製品を摂っている。
- ◎ 28%が毎日肉ソーセージ類をテーブルの上に置いている。
- ◎ 6%が野菜から栄養を摂取し、1%が完全菜食主義者であった。

消費者は、砂糖と脂肪の摂りすぎが不健康と認識している。そのため、回答者の 84%がより糖分の少ない既成食品を用いている。その場合、甘くない味であっても、71%が既成食品に糖分を少なく含むこと、68%が不健康なトランス脂肪酸をより少なく含むこと、そして 38%がより少ない塩分を望んでいる。この結果は、既成食品の中の「糖分、脂肪分、塩分減少一国内革新戦略」を、食料業界とともに、クレックナー大臣の取り組みを支えている。

連邦省は、栄養のために健全なそして意識的かつ簡単な選択に係る、全体的な総合戦略を実施したいと、クレックナーが述べた。

品質上の観点、食品表示に際しても効力を発揮する。回答者の 84%が内容物一添加物質に関する法的に規定された表記が、重要としている。全回答者の殆ど（95%）が、健全な栄養の基礎を学校で学ぶべきこと、そして栄養教育に連邦食料・農業省が参画し支えるべきとしている。

規則的な調理、責任を自覚した生産と購入

ドイツ人の多数（74%）は好んで調理をしている。勿論、日常において多くが不規則に調理しているが、40%は毎日調理している。37%が週に 2~3 回レンジで調理している。回答者の 3/4 弱（73%）が、最低月 1 回簡易食堂に行っている。60%が最低 1 週間に数回食料を購入している。その際、より多くの人々が責任を意識して購入し、どのように食料が生産されたかを知りたいと望んでいる。

70%の回答者が重要なこととして、種に適した家畜の飼育を意識している。そのため、81%が食品に公的な家畜福祉の表示をのぞんでいる。68%が農業で自然資源を大事に扱うことを、希望している。64%が農業者に公正な報酬を、重要視している。

食料レポートについて

連邦食料・農業省は 2016 年以來、毎年 FORSA 意見調査研究所の抽出質問をベースに、ドイツ人がどのように食べているかを、「ドイツ食料レポート」で公表してきた。これは 14 歳からの国民 1000 人への抽出質問をベースに、食一購入習慣について調査したものである。

2 家畜の種に適した飼育—公的な家畜福祉の表示規準について調整

(2019・1・10)

連邦食料・農業省次官 Dr.ヘルマン オンコ エイケンス、家畜飼育者、消費者、動物保護と流通の代表者の会議は、公的な家畜福祉の表示のための規準について、ほぼ完全なコンセンサスに達した。参加者のもとで特により良い畜舎の構造、家畜のより多くの運動、と殺に際しての動物保護について合意がなされた。会議の後、次官 Dr.エイケンスが確認した：この公的な家畜福祉の表示の規準は、豚飼育者のために実行可能であり、そして家畜の福祉についてより多くのことをもたらす。このことは、公的な表示規準によって現在存在する表示システムを、越えることが可能である（例えば飼育システムのような）。我々は部分的に非常に異なる立場を、さらに引き寄せることに成功した。

背景：

家畜福祉の表示は、国会議員の 19 任期に係る連立政権協約の中で合意している。つまり、この議員任期の中期までに家畜福祉の表示システムを、発展させることである。そのため、連邦食料・農業省は公的な家畜福祉の表示導入に関して、生まれてからと殺まで具体的にどのように高い家畜保護の水準を、法的な要請として定めるかをしている。新しい公的な家畜福祉の表示の基本的な性質は、特に国内の法的な大枠、任意の参加、飼育システムだけでなく、資源一管理そして特に家畜に関係した規準に基礎をおいている。

販売のチャンスを最適にするために、公的な家畜福祉の表示は、3つの段階を有している：導入段階、第2段階とプレミアム段階（最高）。消費者の大多数（90%）は、家畜がより良く飼育される場合、食料のためにより多く支払うことを既に了承している。消費者の多くは、公的な家畜福祉の表示を望んでいる（79%）。これは連邦省の食料レポートの中における、消費者アンケートの結果である。

3 連邦食料・農業省政務次官 フォヒテル：農業・農村地域の展望を創り出す (2019・1・10)

政務次官ハンスーヨアヒム フォヒテル(Hans-Joachim Fuchtel) が、バーデンーヴュルテンベルグ州の農業経営を訪れた。彼は今日、連邦議会代表アクセルミュラー (Axsel Müller) とともに、農業一食料業の高度な競争力と効率性のイメージを、ラーベンスブルグの農業経営の訪問によって創り出す：”ドイツの農業と食料は、世界的に求められている。同時に価値創造の分野を形成し、そして就業の場を創設する。我々の農業政策の目的は、農業一食料業の奨励を目的とするものでなければならない。我々は、農業と農村の展望もまた創り出す” と、政務次官は強調した。

同時に政務次官は、農業に対するより多くの社会的評価のために、努力する必要がある：”我々の農業経営は、高品質な食料を生産している。農業者はドイツとバーデンーヴュルテンベルグ州の多くの地域において、その美しさに感嘆するところの景観を維持し、保護している。農業は社会の中心に属している。” と、政務次官は述べた。しかし、彼は農業生産に対する社会的要請と期待を受けて取り組むことを、農業経済にも要求されていると続けた。

”同時にドイツにおける近代的農業は、今後も良き将来展望を有している。また、社会的な期待に反することなく、生産方法に責任を有している。そのため、連邦政府は一連の政策でもって、これに貢献を果たしている”と、政務次官が述べた。農業経営の訪問に際して連邦食料・農業省の参画―農業政策上の当面のテーマもまた議論した。つまり、連邦省のより多くの家畜の福祉、アフリカ豚コレラに対する防護対策から、畑作戦略並びに活力ある農村地域の形成まで議論された。

畑作戦略

畑作において必要な改革プロセスに積極的に取り組むために、連邦食料・農業省は畑作戦略を策定した。これは我々が消費者にさらに健全な食料を供給し、そして同時に生態系的に、経済的に受入れ可能な生産を具体化することである。

家畜の福祉

国内家畜戦略でもって連邦食料・農業省は、ドイツにおける家畜飼育に将来を提供し、そして高度に発達した分野としてさらに改善する。動物―環境保護における生産と市場指向に際して、高品質性のために順守すべき規準によって。

仔豚の去勢に関する当面の議論に対して、政務次官はドイツにおける仔豚が、将来とも生産されるべきことを説明した。”我々は共同でそして受入れ可能な解決策を必要としている。私の意見として動物保護の経済性と社会的な受け入れは、排除されることはない。

我々がこのテーマで動く中であって、緊張する分野が示される。重要なことは、結局外国に家畜飼育を移動させることでなく、商品棚に可能な限り産物が積まれることである。外国における動物保護の緩い義務のもとで生産されたものでなく。全ての参加者がこれに向かって歩まねばならない”と政務次官が述べた。さらに乳牛飼育は、ドイツにおける農業の基本的な柱であると、続けた。”我々は牛乳生産者を支援する。”例えば、特に牛に適した畜舎の建築。勿論、将来的に難しい市場アクセスにより良く対応することができるよう、事前措置を講ずる。

アフリカ豚コレラの予防対策

アフリカ豚コレラは、ドイツに関しても長期間ずっと脅威を与えてきた。そのため、危機的な状況の前に準備を講じている。アフリカ豚コレラと闘うために、法的手段を準備している。

”我々は現在の状況を、非常に真剣に考えている。その上連邦食料・農業省は、一連の対策を講じている。この病気に対して予防的効果を発するために、広範にそして多くの人々に情報を提供する。”

農村地域

連邦食料・農業省は、多様な農村地域における生活の質的改善のために尽力している。なぜならば、農村は我々の国の活力センターであるから。我々の国土の約90%は、農村的に特徴づけられている。国民の半分以上（約4700万人）が、農村に住んでいる。わが省の目標は、生きがいのあるそして魅力的な農村地域である。ここには、最も多くのダイナミズムが生じている。農村女性は、農村地域において経営主的・社会的責任を担っている。同時に農村地域における生活の質的向上と、農村発展のために重要な貢献を果たしている。

政務次官は強調した：農村地域の将来をより強化したいと望む人は、地域において互いのために相互協力しあうべきである。さらに農村女性は、今後とも価値多い貢献を果たすだろう。

| |
|----------------------------------|
| 2019・1・15 訳 青森中央学院大学 中川 一徹 |
|----------------------------------|